



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年1月21日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

変わる笑い 社会風刺コント集団の35年

21日(日)=1、3面



迫る

政治家らの特徴を捉えた物まねで人気の社会派コント集団「ザ・ニュースペーパー」(TNP)が昨年、結成35年を迎えました。記者は2008年から舞台を追ってきましたが、最近は往年の笑いとは違うようです。

昨年秋の舞台で、岸田フミオ首相=写真=を演じるメンバーが「減税したのになぜ支持率が下がるのでしょうか」などといったネ

タを繰り出して、岸田内閣の窮状を笑いに変えていても、客席のノリはいま一つ。一方、客席の笑いがひととき大きくなったのは、小泉ジュンイチロウ元首相が登場した場面でした。

笑いの変化は、政治家の勢いとも関係しているのでしょうか。

TNPのメンバーも入れ替わりがありました。笑いの路線を巡る違いが明確に

なったことで、離脱もありました。また、社会が右寄りになったと指摘されるようになり「『アベ政治を許さない』と言うのが嫌い。今は全方位から笑いを取らないといけない」と語るメンバーもいます。

社会風刺を続けるTNPと元メンバーに迫ります。(前週に予定していましたが、紙面編集の都合で掲載できませんでした)

論点

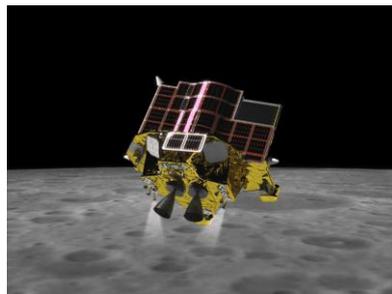
凶暴化した「世間」を変えるには

24日(水)=オピニオン面

新型コロナウイルス禍で日本の「世間」は凶暴化したと話す、作家で演出家の鴻上尚史さん=写真。コロナ禍では「マスク警察」に代表されるように「世間」や同調圧力、相互監視が可視化されたと言います。その結果、我々は行き過ぎに気づき、国家権力に疑問を抱ききっかけになったと言います。「世間」の目が気になっても自分の「好き」を追求することで、「世間」で窒息しなくなる回路を探そうと呼びかけます。



想像図 II JAXA提供



月面探査機 着陸に挑む

21日(日) II 総合面

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の小型月着陸実証機「SLIM」が日本時間20日未明、月面着陸に挑みます。成功すれば世界5カ国目の快挙となりますが、降りたい場所に誤差100メートル以内のポイントで降りる世界初の

ミッションは果たして実現するのでしょうか。開発着手から約20年。一度降下を始めること引き返すことのできない、一発勝負の20分間がやって来ます。成否の結果や関係者の表情などを詳報します。

特集ワイド

オカルト研究家が語る怪談ブーム

23日(火)=夕刊2面



今年は年明けから痛ましいニュースが続いています。「暗い時代ですから、ハッピーで明るい話ばかりを聞きたくない人もいるでしょう。むしろ怪談のように暗い話が癒やしになることもあると思います」。人々が

体験した「怖い話」を聞き取り、語り手として伝えるオカルト研究家、吉田悠軌さん=写真=が怪談ブームについて語りました。

「特集ワイド」の新年企画「生きてゆくあなたへ」として掲載します。

竹橋の窓ばかり

編集後記

第78回毎日映画コンクールの結果が発表され、大賞は阪本順治監督の青春時代劇「せかいのおきく」が、俳優部門では鈴木亮平、杉咲花、宮沢氷魚、広瀬すずの各氏らが、受賞しました(QRから結果をどうぞ)。2月14日の表彰式では、昨年の映画界の「顔」である受賞者がスピーチをします。毎日IDをお持ちの方は100組200人(抽選)をご招待します。ご期待ください。(堀之内浩嗣)

